

- 羽田空港(国内線)では、空港使用許可の期限が到来する機会を捉え、発着枠配分の見直しを行うこととしており、次回の期限到来(2025年1月)に向けて、今後の羽田発着枠の配分に関する考え方を整理。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、今回の回収・再配分は行わず、現行の発着枠配分を継続。
- 次回の回収・再配分(4年後)までの間も、地方路線の維持・活性化を促すために制度を一部見直し。

## 1. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた評価のあり方

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえれば、直近の5年間について、各航空会社による発着枠の使用状況や取組を公平・公正に評価することは困難であるから、今回の回収・再配分は実施せず、現行の発着枠配分を継続。
- ・ 次回の回収・再配分による発着枠配分の見直しは、コロナ禍からの回復に向けた取組も評価に含める観点から、2023～27年度の5年間を新たな評価期間として実施。

## 2. 地方路線の維持・活性化に向けた取組を更に促すための制度見直し

- ・ 地方航空ネットワークの維持に役割を果たしている1便・3便ルールの考え方は、基本的に維持。
- ・ 地域の主体的な取組を一層促すために、3便ルールについては、特例的な転用制限の緩和を可能としたうえで、あわせて政策コンテスト枠を増枠するための仕組みを導入。
- ・ 政策コンテスト枠は、現行の配分を継続したうえで、取組の効果を検証し、今後の方針を確認。

## 3. そのほか

- ・ 4年後の評価に向け、あらかじめ評価方法・評価項目等の見直しの方向性を提示。